

# 学生の学修活動をサポートするeポートフォリオの導入

## eポートフォリオ大阪女学院ライフ

### 大阪女学院大学

学生が携帯するタブレット端末(iPad)とクラウドを連携させながら、学生は設定した目標を「eポートフォリオ大阪女学院ライフ(以下OJL)」に記録し、達成度、課題を振り返るとともにアドバイザー、助言者と共有して助言を得る。音声・映像を含む大容量の学修成果物をクラウドに保存することで、自分の歩みをライフログとして常時振り返り共有することが可能となった。

#### 1. 導入の経緯

平成24年度にアカデミックアドバイザー制度およびそれを支える支援体制を構築し、学生一人ひとりが自分の存在価値に気づきながら、それぞれの目標や到達している学修レベルに応じて履修科目を選択できるカリキュラムに移行した。これを効果的にすすめる学修環境として、平成26度から学生の個々の歩みを支援するeポートフォリオ「大阪女学院ライフ(以下OJL)」の本運用を始めている。

#### 2. 利用形態

OJLでは、学生一人ひとりとの接点となる情報環境として全員がタブレット端末を携帯し、無線LANに常時アクセスできる環境が整備されており、学びの成果をその場でリアルタイムにクラウドに登録できるようになった。この環境を利用して本学の入学生は、オリエンテーションの際に高校時代の総括と大学卒業までの目標を「2分間スピーチ」として宣言し合い、この内容をOJLに記録することから学生生活が始まる。宣言した目標に向けて日々の学修活動、気づきなど折々の振り返りをタブレット端末から、クラウドに自動登録し、アドバイザーや助言者の支援を得て初年次教育の学修成果に結びつけている。また、初年次教育以外の授業においてもプレゼンテーション映像や語学の発音学修など学部固有の学びの成果も登録し活用できるようになっている。



#### 3. 導入の効果

導入初年度の効果は、以下の通りである。

- ① 学生が作成する学修成果が即時OJLに取り込まれることで、学修行動が把握できるようになった。
- ② eラーニングの学修状況やLMS上の学修成果物を各コースを越えて把握できることで学修者ごとの目標と達成度が可視化されるようになった。
- ③ 学生は、常時自分の学修成果や到達度を確認でき、アドバイザーや助言者との連携が可能になった。

#### 4. 今後の課題

- ① 指導するアドバイザーや助言者間の連携を円滑に行うためには、継続的なFD活動が不可欠であり、各支援部門との連携体制の確立が必要である。
- ② 音声・映像を含む多様な成果物の記録が可能になったが、様々なコンテンツを学修目標に即して評価・指導する方法が課題となっている。
- ③ 生涯ストレージを活用し、卒業後も自らのキャリア形成にeポートフォリオが活用できるよう可能性を模索していきたい。

